



ほけんだより

8月号



2023年8月1日 発行
社会福祉法人 尚徳福祉会
保育園与那原ベアーズII

猛暑が続いています。子どもたちは暑さの中でもつい夢中になって遊ぶので、水分補給には十分に気をつけましょう。また、暑いと体力が落ちて、食欲がわからないことや、つい冷たい物ばかりを食べてしまうことがあります。暑さに負けない体づくりをするためにも、しっかりとご飯を食べられる工夫をしましょう！

《 7月の感染症情報 》

ヘルパンギーナ	…	1名
RSウイルス感染症	…	1名
溶連菌感染症	…	1名
新型コロナウイルス感染症	…	3名

気になる虫刺され

乳幼児が蚊に刺されると、大人より反応が遅く、1～2日後に症状が出る場合があります。時間が経つにつれ、赤く腫れたり、水ぼうがでできたりし、腫れる場合も大人よりも大きく腫れあがります。これは、虫刺されの経験が少ないために起こる激しい炎症反応です。

虫刺されの手当て

1. 水でよく洗い流す
2. 虫刺されの薬をつける
(刺されて30分以内につけるのが効果的)
3. かゆみや腫れがひどい時は、冷やす
4. 爪を短く切る(とびひの予防)

- ・かゆみが強く、腫れが続く、ただれてくるなどの場合は、皮フ科を受診してください。
- ・かかないことが大切です。かいてしまうと傷から菌が入り悪化することや、とびひになることもあります。かき続けることで治りも悪くなってしまいますので、十分に気を付けましょう。

園でのお薬の取扱いについて

園ではお薬はお預かりできません。風邪などの急性の病気については、各ご家庭で保護者の方が責任をもって飲ませてください。

病院で薬が処方される際には、1日2回(朝・夕)か1日3回(朝・夕・寝る前)での処方か医師へご相談ください。

慢性疾患については、医師の指示に従い与薬することもあります。その場合「**与薬に関する主治医意見書(医師記入)**」と「**与薬依頼書(保護者記入)**」の提出が必要となります。

- ※ 提出用紙は玄関ホールにあります。「与薬に関する主治医意見書」は受診前にお持ちください、必要時に主治医へ記入依頼をお願いします。
- ※ 園での投薬が必要な場合は職員へご相談ください。
- ※ お薬は必ず職員へ直接、手渡しして下さい。
- ※ 経皮気管支拡張剤(ホクナリンテープなど)はそのまま登園してかまいません、使用している時は必ず職員へお伝えください。

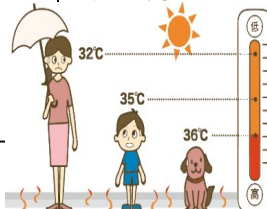
(「保育園のしおり」をご確認ください。)

熱 中 症

乳幼児が熱中症になりやすい原因

- 遊びに熱中しやすく暑さに気づかない
- 体温調整が未熟で熱が体にこもりやすく、すぐに体温が上がってしまう。
- 大人よりも地面に近い環境にいるため、地表から照り返す熱を受けやすい。

地面に近いほど気温は高くなる



予防対策

- こまめな水分補給
(外出時、入浴時、睡眠時などは汗をかきやすいため、その前後に水分補給をしましょう。)
- 炎天下を避けよう
- 風通しを良くする、室温を確認する
- 健康管理(睡眠・栄養はしっかりと)
- 暑さ指数(WBGT)を確認する
(時間帯や場所で異なる)

早期発見のポイント

乳幼児は、自分の身体の状態をうまく伝えられないため、熱中症の症状が出ていないかよく様子を見ましょう。

身体が熱い、吐き気・嘔吐、元気がない・ふらふらしている、唇や舌、口の中が渴いている、不機嫌・泣き止まない、おしっこが出ない、顔面が蒼白、四肢(手足)の痙攣など

応急処置

- 涼しい環境(風通しの良い日陰、クーラーのある室内など)へ避難
- 脱衣と冷却
(衣服をゆるめ、保冷剤・氷や冷たいタオルなどで、首の周り・脇の下・足の付け根などを冷やす)
- 水分や塩分、経口補水液などを補給



意識がはっきりしない時や自力で水分摂取が出来ない時は、すぐに医療機関に搬送する